



Title	体験懐徳堂CD-ROMの制作と懐徳堂モニターの取り組み
Author(s)	湯浅, 邦弘
Citation	懐徳堂センター報. 2005, 2005, p. 1-6
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/24380
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

体験懐徳堂CD-ROMの制作と 懐徳堂モニターの取り組み

湯 浅 邦 弘

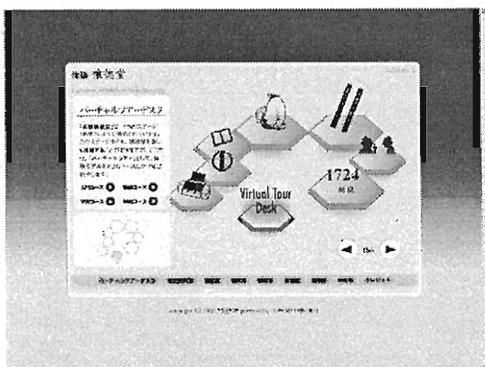
懐徳堂の魅力を電子媒体を活用して伝えたい。そうした思いで、この数年、懐徳堂の電子情報化に努めてきた。平成15年度には、西村天因『懐徳堂考』の全頁を電子化した「電子懐徳堂考」CD-ROM版を制作し、また平成16年度初頭には、懐徳堂研究の総合サイト「WEB懐徳堂」(<http://kaitokudo.jp/>)の公開を果たした。

ただ、これらはいずれも研究用ツールとして制作・公開されたものであり、高校生や大学生にはややハードルが高いとの印象も得ていた。

そこで、平成16年度の課題として取り組んだのが、より楽しく、より分かりやすく、懐徳堂を「体験」してもらうためのツール作りである。基本的なコンセプトは、閲覧者が架空の懐徳堂の中をバーチャルツアーするというものである。

本稿では、その概要について紹介し、また、これと連動した懐徳堂モニターの取り組みについても言及しておきたい。

1. 体験懐徳堂の構成



体験懐徳堂トップページ

企画段階で構想したのは、現在「懐徳堂文庫」が収蔵されている大阪大学附属図書館新館の貴重図書室をそのままバーチャル化することであった。このバーチャル書庫内を閲覧者がツアーしながら懐徳堂を体験するという構想である。ただ、これは、貴重図書室内の文庫整理が現在進行中であり、実際の文庫とバーチャル書庫との間に将来大きな違いが生ずる可能性があったため、断念した。

そこで次に構想したのは、まったくのバーチャルな懐徳堂である。架空の「研究室」「歴史資料室」「教授室」などを設置して、その中に現実の貴重資料などを配置しながら、懐徳堂の魅力を分かりやすく説明していくというものである。

紆余曲折はあったが、最終的に到達したのは、次のような部屋の構成である。

「バーチャルツアーデスク」

このCD-ROMのガイド役を務める部屋である。「体験懐徳堂」は、以下の7つのステージ(部屋)によって構成されている。どのステージからも、懐徳堂を楽しく体験できるよう配慮しているが、懐徳堂そのもの、あるいはパソコン操作に習熟していない閲覧者を想定して、「バーチャルツアー」として、体験モデルを、「入門コース」「基礎コース」「学習コース」「研究コース」の4つのコースに分けて紹介した。

「歴史資料室」

懐徳堂の誕生から現在に至るまでの歴史、懐徳堂の貴重資料を収めた懐徳堂文庫の成立や現状を、年表・解説・写真・地図などによって紹介する。内容は、「懐徳堂の歴史・関係地図」「懐徳堂年表」「懐徳堂文庫の歴史」「懐徳堂文庫年表」からなる。最も基礎的な情報を得ることのできるステージである。

「閲覧室」

アニメーション「懐徳堂物語」によって、懐徳堂誕生のようすを紹介する。このCD-ROM内では唯一の動画・音声コンテンツであり、計6分30秒の内容である。

「研究室」

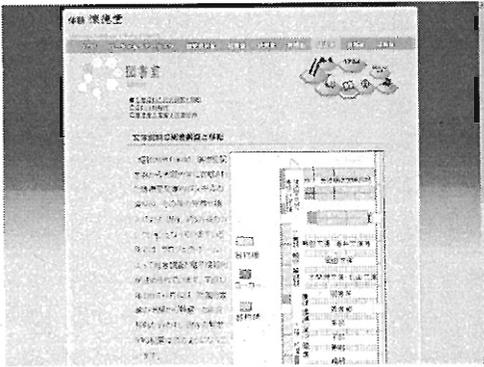
懐徳堂の基本的な精神、関係人物、時代背景などについて、興味深いエピソードをまじえながら紹介する。内容は、(1)「懐徳堂の精神」、(2)「懐徳堂の人々」、(3)「懐徳堂の時代」に三分類し、さらに、(1)の「懐徳堂の精神」では、「懐徳」の由来、学問の目的、武士と町人の関係、寄宿生のカリキュラム、懐徳堂の大きさ、開講時間と木司令などの小項目によって構成した。(2)の「懐徳堂の人々」では、懐徳堂の著名人とそれにまつわるエピソードを紹介することとし、中井竹山と関羽將軍、扶桑と日本と中井竹山、中井履軒のこぶ、森鷗外と懐徳堂、文章の天才—中井蕉園、大塩平八郎と懐徳堂などの小項目によって構成した。(3)の「懐徳堂の時代」では、懐徳堂の歴史にまつわるエピソードを紹介することとし、懐徳堂と火災、外国事情、ロシア軍艦と懐徳堂、評判記に記された懐徳堂、閉校後の懐徳堂などによって構成した。

「教授室」

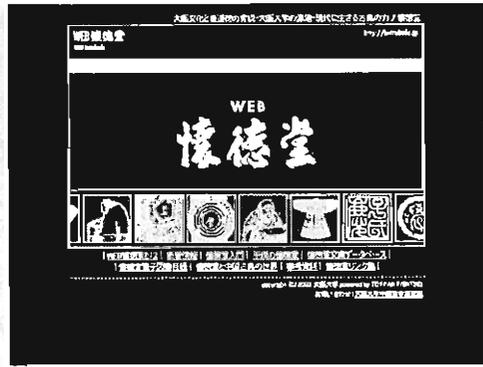
懐徳堂の歴代学主(学長兼教授)について解説した。初代学主・三宅石庵を初めとして、中井齋庵、三宅春楼、中井竹山、中井履軒、中井碩果、並河寒泉の7人の主要人物を通して懐徳堂の特色を知ることができよう配慮した。

「図書室」

大阪大学「懐徳堂文庫」の現況、資料分類について解説する。「文庫資料の総合調査と移転」「資料分類解説」「懐徳堂文庫電子図書目録」の三部によって構成する。この内、「文庫資



図書室



図書室にリンクするWEB懐徳堂

なお、本CD-ROMの動作環境など技術的な問題については、「バーチャルツアーデスク」の項に「操作説明・注意事項など」として次のような注記を添えた。

〈動作環境〉

ディスクを、動作環境を満たすパソコンのCD-ROMドライブにセットしてください。プログラムが自動的に再生します。自動的にスタートしない時にはディスク内のindex.htmlをインターネットエクスプローラーアイコンにドラッグして再生させてください。

〈Windows〉

OS：Windows 98/Me/2000/XP

CPU：MMX 166 MHz 以上

メモリ：64MB以上を推奨

モニタ解像度：SVGA (1677万色) 以上を推奨

ブラウザ：Internet Explorer 5.5以上

*本コンテンツを再生するには最新のFlashプレーヤーが必要です。

*一部機器によっては上記条件を満たしても正常に再生できない場合があります。

〈インターネット〉

インターネットに接続していれば、参考URLから懐徳堂関係のサイトへ移動することができます。特に、懐徳堂研究の総合サイト「WEB懐徳堂」は是非ご覧下さい。

〈プリンタ〉

プリンタに接続していれば、各ステージの内容を印刷することができます。また、「印刷室」には、「体験懐徳堂」オリジナルのステッカーとメモ用紙のデータを用意しました。まずデータをパソコンにダウンロードし、目的に応じた用紙にプリンタ出力してお使い下さい。ただし、他のサイトや著作物に掲載される場合には、必ず許可申請をして下さい。

2. 懐徳堂モニターの取り組み

インターネットやCD-ROMといった電子媒体を活用して、情報を迅速かつ広範囲に提供することができるようになった。しかし一方では、情報の発信者と受信者の間に意思の疎通を欠き、受信者からの身勝手な情報提供に終わってしまう恐れもある。こうした一方通行の弊害を克服するためには、受信者・閲覧者側の声が発信者側に届くような工夫が必要である。

そこで、この体験懐徳堂CD-ROMを初めとする懐徳堂デジタルコンテンツについて、広く受信者・閲覧者の意見・感想を寄せていただくモニター制度を開始することとした。

具体的には、大阪大学大学院文学研究科と(財)懐徳堂記念会とが協力し、様々な機会にモニターを公募するとともに、懐徳堂記念会HPに応募用紙(PDFファイル)をダウンロードできるよう配慮した。

応募用紙は前頁の通りである。平成16年度の受付はすでに終了しているが、引き続き、平成17年度も公募しているので、この応募用紙を利用して応募していただければ幸いである。

なお、平成15年度に試行したモニターの結果については、本誌所収「懐徳堂モニターの試行」をご覧ください。